

NATIONAL INSTITUTE FOR MINAMATA

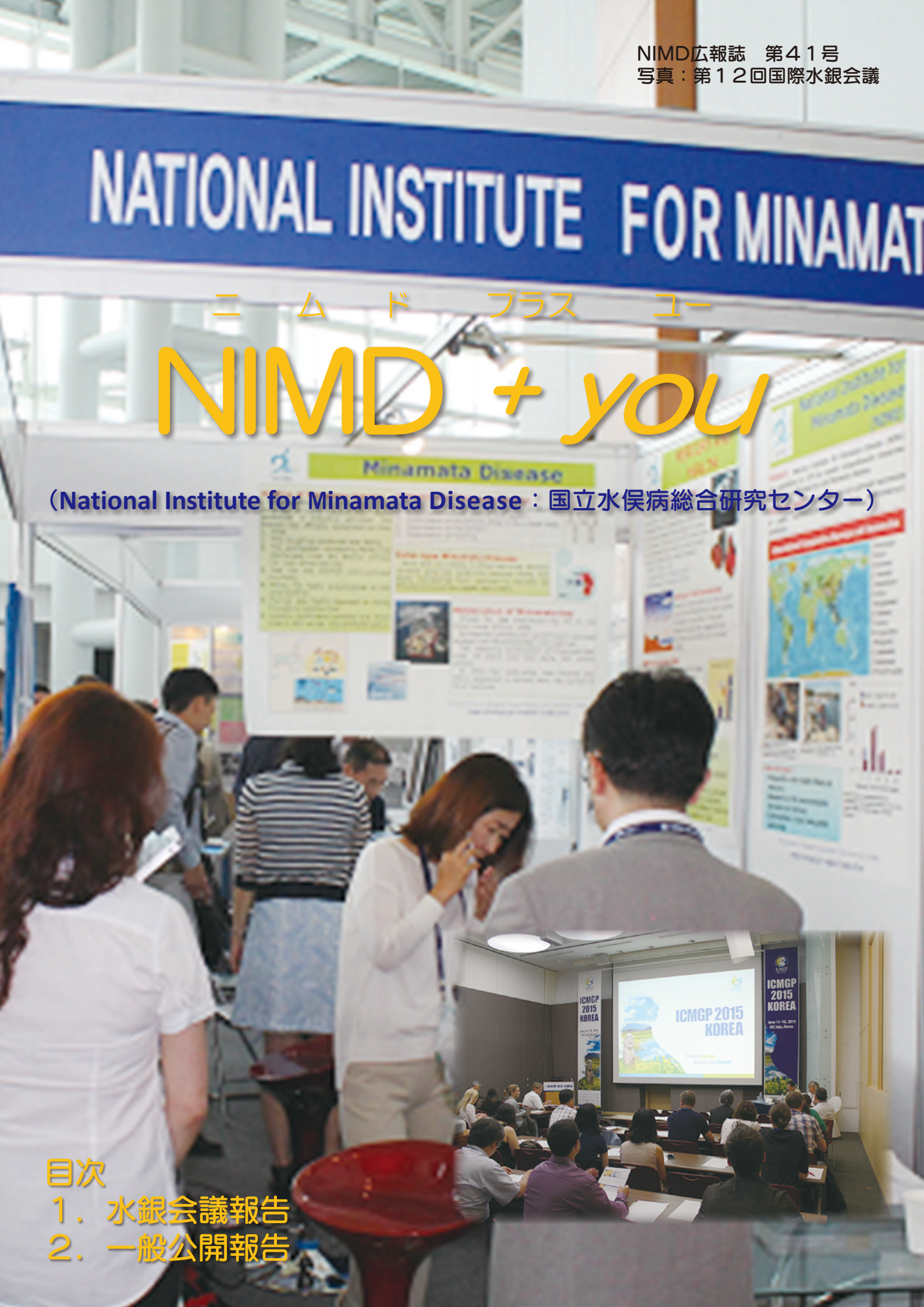
ニ ム ド プラス ユー

NIMD + you

(National Institute for Minamata Disease : 国立水俣病総合研究センター)

目次

1. 水銀会議報告
2. 一般公開報告



巻頭言

「NIMD+you」をご覧ください、ありがとうございます。

環境省国立水俣病総合研究センター（国水研）の日々の活動や研究の成果などについて、できるだけ分かりやすくお伝えすることを目的にしています。

今号は、特集として2年おきに開催されている「第12回国際水銀会議」の参加報告、7月に開催しました「オープンラボ（一般公開）」の概要について掲載しております。

国水研は、この広報誌「NIMD+you」のほかにホームページ、フェイスブックにて情報を発信しております。合わせてご活用ください。

所長ご挨拶

国立水俣病総合研究センター所長

望月 靖



昨年10月1日付けで就任いたしました望月靖（もちづきやすし）と申します。

国立水俣病総合研究センターは、わが国の公害の原点ともいえる水俣病とその原因となったメチル水銀に関し、総合的な調査・研究、情報の収集・整理・提供を行い、国内外の公害の再発を防止し、被害地域の福祉に貢献することを、その使命としております。水俣病関係に関わるのは初めてとなりますが、当センターがその役割を十全に果たせるよう、努力してまいりたいと思います。

少し自己紹介をいたしますと、医学部卒業後大学院に入学し、4年間微生物学教室でウイルスの研究に従事し、2年間内科の研修の後、厚生省（当時）に入省しました。厚生労働本省よりも他省庁や関係機関の勤務が多く、ここ最近（独）医薬品医療機器総合機構で医薬品や医療機器の承認審査、法務省で刑務所や拘置所などの矯正施設の医療、厚生労働省福岡検疫所で国内にない感染症の侵入防止と輸入食品の安全対策、そして保健医療福祉に関わる地方自治体職員への養成訓練や調査研究を行っている国立保健医療科学院で組織運営管理全般に関わってきました。行政に移ってからは、直接研究に携わる機会はなくなり、関わりはもっぱら側面からの支援になっております。

ところで、自身の経験として、九州における勤務はこれで3回目となります。以前佐賀県庁に出向していたことがあり、福岡検疫所、そして今回ということになります。また、福岡検疫所勤務時には、水俣港が所管港であったことから、衛生調査のため港湾の視察にもまいりました。そういう意味では、九州、そして水俣には不思議な縁を感じております。

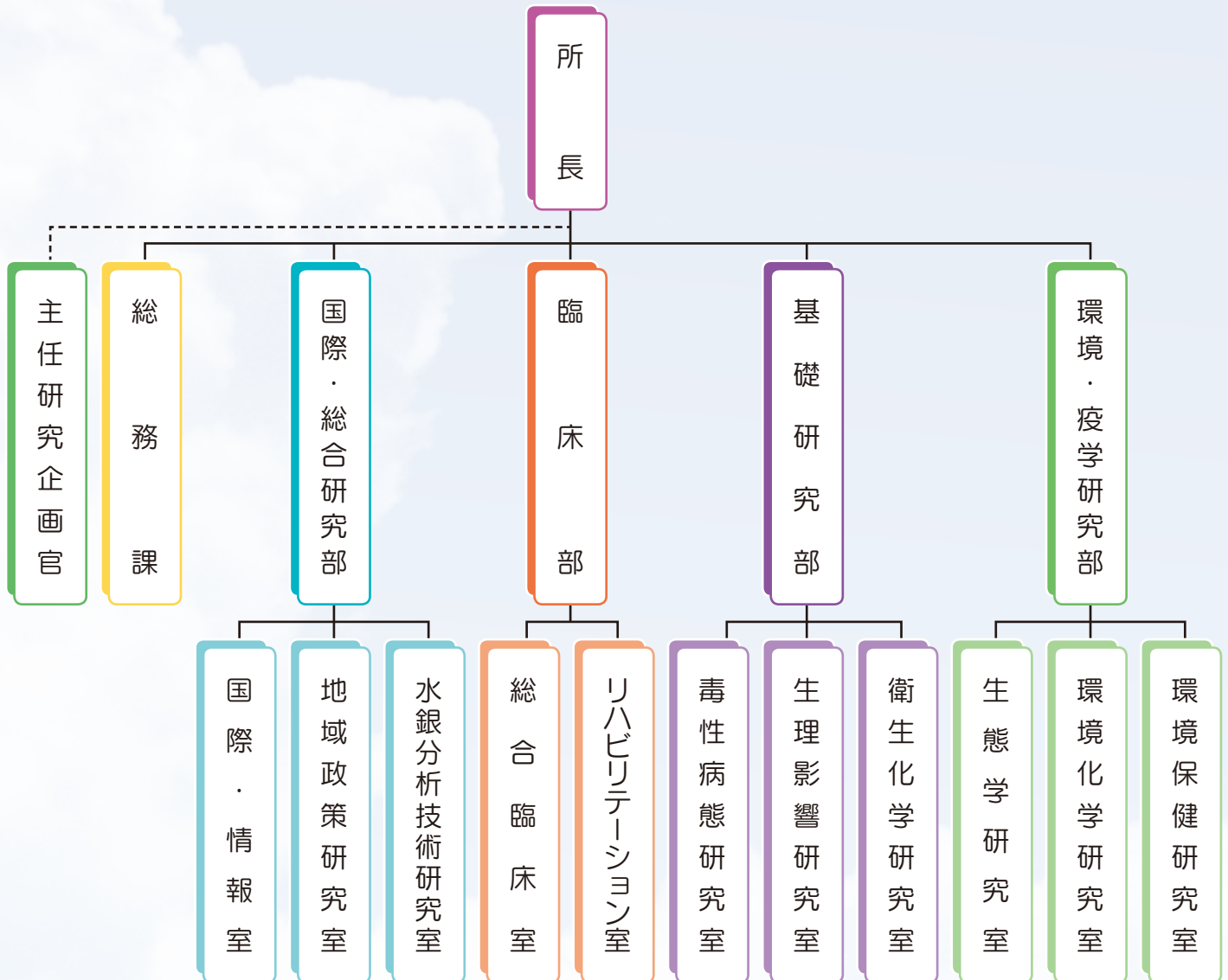
水俣市は風光明媚で豊かな自然にあふれた地域で、特に当センターからの八代海の景色は素晴らしいものです。一方で、将来に必ずつなげなければならない歴史と教訓も有しております。各関係、先生方から色々ご教示いただきながら、当センターの発展に貢献いたしたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

研究体制

6つのグループを設け、調査・研究課題に合わせ横断的に推進しています。



国立水俣病総合研究センター組織図



第12回国際水銀会議- “Today’s Action, Saving the Future” 今日の行動が未来を救う-

坂本 峰 至 (国際・総合研究部長)

第12回国際水銀会議 (12th International Conference on Mercury as a Global Pollutant) が2015年6月14日から6日間、大韓民国 (韓国) 済州島の済州国際会議センターで開催されました。今回の会議は韓国でのMERS (中東呼吸器症候群) の流行により、一部研究者や水俣病語り部の参加キャンセルがあつて順調な開催が危ぶまれましたが、60か国から800名を超える参加者があり、影響は最小限で留められるという事務局の評価でした。毎回行ってきた国水研のブースでの毛髪中水銀濃度測定は感染予防のため中止しましたが、国水研の研究や国際貢献のアピールは例年通りに実施されました。

初日にはオープニングに先立ち、会議主催のワークショップにて教育コースが開催されました。国水研からは午前中に坂本がヒトの水銀曝露バイオマーカーについて、午後には松山環境化学研究室長が水俣湾の水銀評価とヘドロ処理についての講義を行いました。また、オープニングセレモニー直前に熊本県による水俣病語り部の映像とメッセージによるワークショップが実施されました。

2日目の15日午前中には、国水研が担当する「メチル水銀曝露によるリスクがある集団と健康影響」というタイトルでスペシャルセッションが行われ、ローリー・チャン博士と坂本の司会進行で、アメリカ2名、ブラジル、スロベニア、カナダ、日本2名、計7名の研究者が、各々15分の持ち時間で研究発表を行いました。78名の聴衆が集まり、立ち見客が出る盛況ぶりで活発な質疑応答が行われ、スペシャルセッションの内容評価に関しては、86%が満足であるという回答が得られました。本スペシャルセッションは2013年10月に熊本市で開催された水銀による地球規模での環境汚染防止を目指す「水銀に関する水俣条約」が国連環境計画UNEP主導により採択され、水銀のバイオモニタリングへの注目が高まっている現状にある中で非常にタイムリーなセッションであったと考えられます。午後のUNEPによる水銀に関する水俣条約の実施への科学的貢献に関する講演では、水俣病語り部の「二度と水銀によって我々のような被害者を出さないで欲しい」というメッセージが冒頭に流されました。

第12回国際水銀会議において特記すべきは、赤木洋勝先生 (元国際・総合研究部長) が世界で3番目、アジアで初のライフタイム功労賞を受賞したことです。6月17日にこの授賞式で受賞記念講演が実施され、受賞に向けての業績取りまとめや授賞式で放映された先生の活動写真や祝辞メッセージ作成に携わった国水研研究者たちにとっても喜ばしい受賞でした。

次回の第13回国際水銀会議は、2017年7月にアメリカ・プロビデンスにて開催予定です。

国際水銀会議とは

正式名称は「地球環境汚染物質としての水銀に関する国際会議」で、水銀問題に関する幅広い分野の研究者が一同に会し、水銀に関する最新の研究成果を発表する大規模な国際学術会議です。2年に1度開催されており、水俣市では2001年に第6回会議が開催されました。



「オープンラボ（一般公開）」 満員御礼感謝いたします



国水研の夏の恒例行事「オープンラボ（一般公開）」を、7月18日（土）に開催しました。天候にも恵まれ、236名の来所者で大賑わいでした。子供達から高齢の方々まで、幅広い年齢層の方々に来ていただきました。たくさんのご来場、本当にありがとうございました。

企画は例年どおりのものから新規のものまで、科学イベントとして子供達の自由研究のヒントになる物や家族みんなで楽しめる物など盛りだくさんでした。今年の企画について簡単に紹介します。

◀案内ポスターです。大判印刷を駅やコンビニなど人目に触れやすい掲示すると共に、小型版を学校や公民館などで配布しました。



▲「ストレスチェックしてみませんか？」のアロマ体験の様子です。

「ストレスチェックしてみませんか？」では、だ液アミラーゼを測定しストレスの状態をチェックしました。アロマによってストレス軽減効果に違いがあることを実感されていました。

「色と光の三原色 絵の具やLEDの光を混ぜて楽しもう！」では、絵の具を混ぜた場合とLEDの光を混ぜた場合の違いを体験しました。印刷物を拡大したり、三角プリズムで光を分けたりと色の不思議に触れました。

「わた菓子をつくって物質の変化を学ぼう！」では、わた菓子作りを体験しながら、物質の三態（気体、液体、固体）について、学んで貰いました。わた菓子についての科学的説明は、小学生高学年になると興味津々な様子でした。

「ものづくりでリハビリ体験」は例年人気の企画で、今年は革のしおり作りとミサンガ、カラーゴムプレスレット作りでした。順番待ちが出る盛況で、子どもも大人も夢中になって、制作に没頭していました。

「かみの毛の水銀をはかってみよう！」は国水研の定番企画です。参加者からは自分の値がどこに位置するのか結果判定はドキドキしたとの意見がありました。

「水銀ゼロの乾電池をつくってみよう」では、水銀フリーの感電池を手作りしました。できあがった乾電池には国水研オリジナルのくまもんラベルを貼りました。

「手作り顕微鏡でミクロの世界をのぞいてみよう」では、顕微鏡制作キットとペットボトルで顕微鏡を手作りし、いろいろなものを拡大して見ました。



▲「ものづくりでリハビリ体験」にみんな夢中！

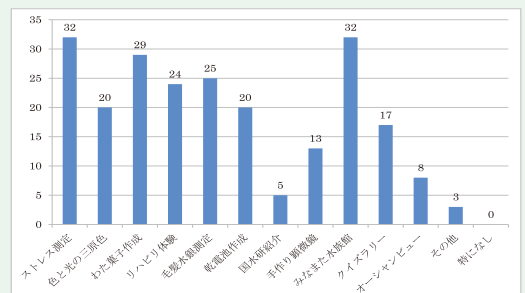


▲「タッチプール」では、水俣湾近くの生き物に触れることができます！

「みなまた水族館～海の生き物のおもしろ実験～」では、「タッチプール」と「海の生き物の餌の食べ方」に注目した実験の二本立てとなりました。ちびっこはタッチプールに夢中で、特にナマコが大人気でした。ろ過食の生き物が海水をきれいにする実験、肉食の貝類が餌に集まる実験は子供より大人が熱心に見入っていました。

アンケートでは、すべての企画に対し良い評価をいただきました。国水研が何をやっているのか初めて判った、毎年楽しみにしている、などの言葉もいただきました。次年度への励みとなりました。

地域の方々に国水研を知っていただく貴重な機会であるため、今後もたくさんの方々が「何度来ても楽しめる」企画を工夫して、皆さんをお迎えしたいと思います。



参加して良かった企画。アンケート回収66枚、複数回答可として228件の回答結果。

国水研の動き (2014年11月から2015年末)

2014年

- 12/ 2 シン・ヨンス 世界保健機構西大西洋地域事務局長水俣視察
- 12/ 3~4 JICA研修 (ケニア・ソロモン諸島・クック諸島・ブラジル・エクアドル・タイ・中国)

2015年

- 1/29 David Schmelz アメリカ合衆国環境保護庁主任環境分析官水俣視察
- 1/31 第7回介助技術講習会
- 2/26 田中明彦JICA理事長水俣視察
- 3/ 2~5 水俣病経験の普及啓発セミナー (海外行政担当者招へい研修)
- 3/10 動物慰霊祭
- 3/18 JICA研修受入れ (カンボジア・中国・イラク・ミャンマー・パキスタン・スリランカ)
- 5/ 1 水俣病犠牲者慰霊式
- 5/26 オハイオ州立大学水俣病研修受入れ (アメリカ)
- 5/28 JICA研修受入れ (ウルグアイ)
- 6/16 JICA研修受入れ (ブータン・ボスニアヘルツェゴビナ・エジプト・ジャマイカ・コソボ・ミクロネシア・パラオ・パレスチナ・サモア・セーシェル・スリランカ)
- 7/17 第13回微量元素の生物地球化学に関する国際会議 (ICOBTE 2015 FUKUOKA) 水俣視察
- 7/18 オープンラボ (一般公開) 開催
- 9/11 JICA研修受入れ (アルゼンチン・ウルグアイ・エクアドル・キューバ・パラグアイ・ペルー・ボリビア)
- 9/17 JICA研修受入れ (メキシコ・ベトナム・スリランカ・ミャンマー)
- 10/24 「水俣条約2周年フォーラム」
- 12/10 JICA研修受入れ (ブラジル・中国・ケニア・モザンビーク・ニカラグア・ベネゼエラ)



国立水俣病総合研究センター (NIMD) のロゴマークです。

「水」の字をもとに、水俣の川と海をイメージし、また左側は「大人」、右側は「胎児」と水俣病で犠牲になった方々をも表しています。環境汚染による被害が二度と発生しないよう思いをこめて、「本来あるべき美しい自然の色」である水色や緑色で表現しました。

NIMD, National Institute for Minamata Disease

環境省 国立水俣病総合研究センター

〒867-0008 熊本県水俣市浜4058-18
TEL.0966-63-3111 FAX.0966-61-1145
<http://www.nimd.go.jp/>

水俣病情報センター

〒867-0055 熊本県水俣市明神町55-10
TEL.0966-69-2400 FAX.0966-62-8010
<http://www.nimd.go.jp/archives/>

